

ひとはくの歩み

※年度ごとの主なできごと

この30年、ひとはくは社会的課題に応じた様々な活動を実践してきました。
ここでは、2021年度までのひとはくのあゆみを振り返ります。



●自然系博物館設立準備室長

中根 孝司（1989～）（社会教育・文化財課長 兼務）
伊谷 純一郎（1990）
加藤幹太（1991）

●館長

初代館長
加藤 幹太（1992～）

第2代館長
河合 雅雄（1995～）

第3代館長
岩槻 邦男（2003～）

第4代館長
中瀬 敏（2013～）

●主な出来事

- 「県立自然科学博物館設置について」を県議会に請願（1968）
IFHP（住宅・都市及び地域計画国際連合）兵庫国際会議が開催され「人間居住環境研究センター」を設置する必要性を提唱（1976）
「兵庫県立自然系博物館基本構想」を策定（1986）
- 1989 ● 兵庫県教育委員会社会教育・文化財課内に、自然系博物館（仮称）設立準備室を設置
- 1992 ● 人と自然の博物館および姫路工業大学自然・環境科学研究所開館
- 2000 ● 「人と自然の博物館の新展開」を策定
- 2006 ● 新たな「人と自然の博物館基本構想」を策定
- 2007 ● 新たな「人と自然の博物館基本計画」を策定
- 2012 ● 「ひとはく将来ビジョン」を策定
- 2021 ● 新収蔵庫棟「コレクショナリウム」を建設

●開館前

1973 ● 兵庫県自然保護協会から環境保全・自然保護活動の分野の博物館設置について要望書の提出

1988 ● 人間居住環境博物館構想を取り入れた博物館として、三田市深田公園内ホロンピア館を活用して建設することが決定

●開館以降

1992 ● 開館記念式典を開催、秋篠宮同妃両殿下がお成り [1]
● 総合共同研究を開始



1993 ● ボランティア養成講座を開始

1994

- 災害をテーマにした特別集中セミナーを開催



1995

- 震災発生直後より緊急調査や提言活動、被災者支援とそのネットワーク化を推進 [2]

● 植物標本庫が国際的な植物標本リストIndexHerbariorumに“HYO”として登録



1996

- 「ミュージアムフェスティバル」を開催 [3]

1997

- 開館5周年記念行事開催、立花 隆氏が記念講演
● マレーシア国立サバ大学と国際学術交流協定を締結
● 文部省の科学研究費補助金取扱規定による研究機関に指定
● 「ボランティアデー」を開始



1998

- 「ボルネオジャングル体験スクール」を開始 [4]
● 岩田久二雄・常木勝次・坂上昭一氏コレクションを受贈



1999

- NPO法人「人と自然の会」と協力協定を締結 [5]
● 神戸市北区でサイ化石（ザイサンアミドン）を発見



2000

- 小林桂助氏コレクションを受贈 [6]
● 兵庫県におけるワイルドライフ・マネジメント推進の方向検討を主導
● 県立有馬富士公園運営計画策定を主導 [7]
● 淡路花博「ジャパンフローラ2000」で展示した標本類を移設し、常設展に「共生の森」がオープン



2001

- 江田 茂氏コレクションを購入 [8]
● 受託研究を開始
● 愛称が「ひとはく」に決定
● 「ひとはくセミナー倶楽部」の運用を開始
● ミュージアムフェスティバルを「ひとはくフェスティバル」に改称
● ボランティアデーを「ドリームスタジオ」に改称



2002

- 開館10周年記念式典を開催、河合隼雄氏が記念講演
● 「ひとはくキャラバン」を開始 [9]



- 事業活動の中期目標を設定
● 「スーパードリームスタジオ」を開催



2003

- 高校連携セミナー、夏季教職員セミナーを開始
● 「ひとはくサロン」がオープン
● 兵庫県立三田祥雲館高校と協定を締結



2004

- 県立大学の統合に伴い、博物館に設置する研究所を「兵庫県立大学自然・環境科学研究所」に改称
● 自然環境モノグラフ1号を出版 [10]
● ひとはく地域研究員養成事業を開始
● 西日本自然史系博物館ネットワーク設立を主導
● 外来種問題検討プロジェクトを開始
● 学校との連携で「教材開発研究会」が発足
● ひとはくキャラバンの利用者数が13万人を突破
● 三田市で哺乳類化石（三田炭獣）を発見
● 淡路島で恐竜と翼竜の化石を発見



2005

- 「共生のひろば」を開始 [11]
● 猪名川町と協力協定を締結



2006

- 兵庫県立有馬高校と協定を締結
● GBIF・科学系博物館情報ネットワーク推進プロジェクトを開始
● 丹波市で恐竜化石（丹波竜）を発見



2007

- 岩槻邦男館長が文化功労者として顕彰
● ひょうご恐竜・哺乳類化石プロジェクトを開始 [12]
● 兵庫県立大学附属中学校と協定を締結
● 兵庫県立大学の大学院教育を開始
● 篠山市で日本最古の哺乳類（真獣類）化石を発見
● 丹波市、丹波県民局と恐竜化石に伴う基本協定を締結（3者協定）



2008

- 「生物多様性ひょうご戦略」の策定を主導
- 特別展示「ファーブルにまなぶ」を開催
- 「ひとはく恐竜ラボ」がオープン [13]



2009

- 岩槻邦男館長が瑞宝重光章を受章
- 加東市と協力協定を締結 [14]
- 佐用町昆虫館と連携協定を締結、洪水被害を受けた同館への支援活動を開始 [15]
- 兵庫県産維管束植物目録が完成



2010

- COP10 生物多様性交流フェアに出展
- 「ひょうごのいきもの・ふるさとを見守るなかま」を発行
- 篠山層群における恐竜・哺乳類化石等に関する基本協定を締結
- 「いきものかわらばん」を開始



2011

- キッズひとはく推進室が発足、「キッズキャラバン」を開始 [16]
- 地域展開推進室が発足、「ジオキャラバン」を開始
- 兵庫県立丹波並木道中央公園で小型恐竜の化石を発見
- 「生物多様性協働フォーラム」を開始
- 東日本大震災「被災地支援キャラバン」2011を実施 [17]
- 津波によって被災した学術標本のレスキュー活動を実施



2012

- 開館20周年記念行事を開催、秋篠宮殿下がお成り
- 移動博物館車「ゆめはく」が始動 [18] [19]
- 魅せる収蔵庫トライアル「ひとはく多様性フロア」がオープン
- 「ひょうご恐竜化石国際シンポジウム」を開催
- 「教員のための博物館の日 in ひとはく」を開催

2008

- 伊丹市教育委員会と協力協定を締結
- 頌栄短期大学から約25万点の植物標本を受贈
- 兵庫県立大学自然・環境科学研究所20周年記念シンポジウムを開催
- 総利用者数が300万人を突破



2013

- 関西広域連合生物多様性保全施策の策定に幹事館として参画

2014

- 丹波竜を新属新種タンバティナス・アミキティアエとして命名記載
- 「小さな学校キャラバン」を開始 [20]
- コミュニケーション・デザイン研究ユニット始動
- 「ひとはく20年のあゆみ」を公表
- ひとはくサロンをリニューアル
- 「人と自然の会」設立20周年



2015

- 丹波竜発掘現場脇から小型の卵化石を発見
- 羽田義任氏コレクションを受贈 [21]
- 常設展に新展示「ひょうごの岩石と鉱物」がオープン



2016

- ファーブル没後100年記念事業を実施
- 岩槻邦男名誉館長がコスマス国際賞を受賞
- 「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」を開始 [22]
- 「高校生のための生き物調査体験ツアー in 台湾」を開始
- 「三田市有馬富士自然学習センター・プログラム運営事業」を開始



2017

- 「篠山層群化石を活用した地域活性化を目指す人材育成システム構築事業」を開始 [23]



- 開館25周年記念フォーラム「日本の恐竜時代を探る!」を開催
- 開館25周年記念展示として「ひとはく研究員のいちおし25選」を開催
- 開館25周年スペシャルセミナーとして11件のセミナーを開催

2018

- 「篠山層群恐竜・鳥類卵化石発掘調査事業」を実施
- 「篠山層群化石を活用した地域活性化事業」を開始
- 県政150周年記念国際シンポジウム「巨大恐竜、竜脚類の謎に迫る!」を開催
- 「兵庫県立有馬富士公園休養ゾーン活性化推進事業」を実施
- 県政150周年記念事業として展示特別企画「ひょうご五国の自然展」を開催
- 収蔵標本を活用したオープンセミナー「標本のミカタ～コレクションから新しい発見を生み出す～」を開始 [24]



- 新収蔵庫棟の基本構想を策定
- 「そとはく」を開始
- 兵庫教育大学と連携協定を締結
- 湊川短期大学と連携協定を締結

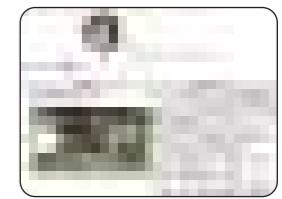
2019

- 「ふるさと兵庫こども環境体験推進事業（ひょうごエコプロジェクト）」を開始 [25]
- 新型コロナウイルス感染症の対策として臨時休館を実施
- オンライン学習コンテンツ「ひとはくキッズのお道具箱」を開始
- 画像データによる「さく葉標本コレクション」の管理・活用システムを開発



2020

- オンライン動画配信「ひとはくデジタルアーカイブ」と「ひとはく研究員Webセミナー」を開始 [26]



[26]